

# APO Letter

2022

81  
June

〈巻頭座談会〉

## ■多職種連携による糖尿病重症化予防

社会医療法人シマダ 嶋田病院 内科部長(糖尿病専門医) 佐賀大学医学部臨床教授

赤司 朋之 先生

社会医療法人シマダ 嶋田病院 看護部 糖尿病連携コーディネートナース

西岡 恵子 さん

坂本 則子 さん



SOGO PHARMACY GROUP

## Round-table Talk

### 卷頭座談会

# 多職種連携による 糖尿病重症化予防



社会医療法人シマダ 嶋田病院 内科部長(糖尿病専門医) 佐賀大学医学部臨床教授

**赤司 朋之** 先生  
(写真中央)

社会医療法人シマダ 嶋田病院 看護部 糖尿病連携コーディネートナース

**西岡 恵子** さん  
(写真左から3人目)

**坂本 則子** さん  
(写真右から3人目)

福岡県小郡市に位置する社会医療法人シマダ 嶋田病院は、小郡市と三井郡大刀洗町を合わせた「小郡三井医療圏」における地域医療支援病院、在宅療養支援病院として地域医療の中核を担っています。嶋田病院に2006年、赤司朋之先生が赴任され、循環型糖尿病連携パスが開始されました。現在、連携パスには地域診療所が約60施設、そうごう薬局 大刀洗店・北野調剤薬局含め保険薬局が約30施設参加しており、保険薬局については地域の約8割が参加しています。

この連携パスの大きな特徴として、連携専任の糖尿病療養指導士(連携コーディネートナース)が配置されていることが挙げられます。

今回は、赤司先生、連携コーディネートナースの坂本さんと西岡さんにご参加いただき、「多職種連携による糖尿病重症化予防」をテーマに座談会を開催いたしました。

### CONTENTS

#### • Round-table Talk

##### 卷頭座談会

##### 多職種連携による 糖尿病重症化予防

1

#### 地域連携薬局紹介

9

#### 全国に広がる 健康サポート薬局

11

#### 2021年度 学会発表演題紹介

13



**小野 悠介** (司会)  
北筑後ブロック  
南筑後・佐賀ブロック  
ブロック長



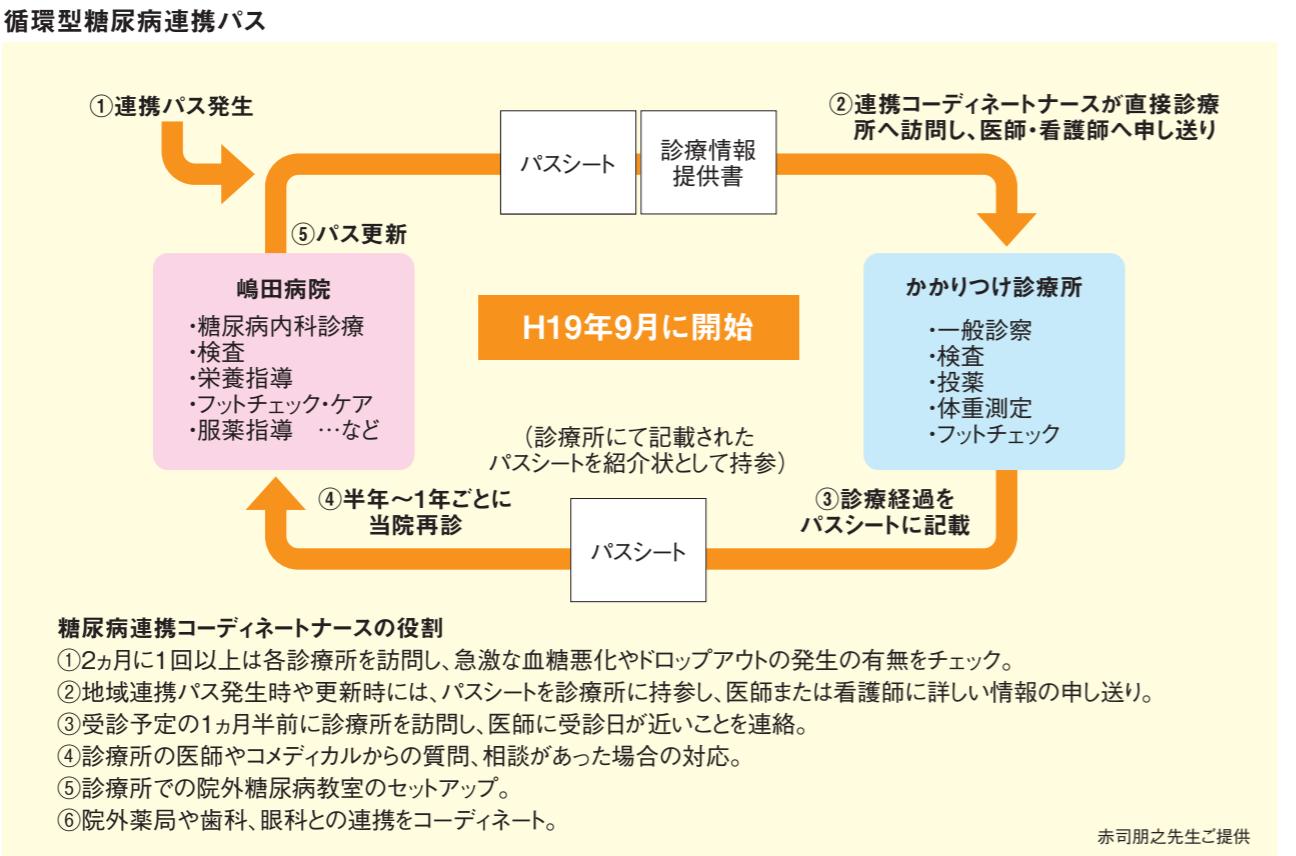
**水口 真一**  
人財育成部 部長



**北尾 美帆**  
北野調剤薬局  
専門薬剤師



**山本 隼也**  
そうごう薬局 大刀洗店  
薬局長



看護師に求められる能力は多岐にわたります。特に医師とのコミュニケーションなどに負担を感じている看護師の方々にメッセージはござりますか。

された患者さんをお戻しすることが主な目的でした。開業の先生も自分の患者さんのことなので興味を持つて聞いていただけました。また最初に連携バスの導入を決定されたときに、私たちと一緒に赤司先生がすべての連携先一軒一軒に足を運び、循環型連携バスの主旨を説明して下さったことで、顔の見える連携のベース作りができたのだと思います。私が思っていた連携のハードルよりも低く、スマーズに連携先の先生やスタッフの方々とお話しする事ができました。

**坂本** 私は当時、すでに退職していたのですが、お誘いを受けてぜひ参考加したいと思いました。以前の病院では病棟勤務だったので開業の先生と関わることがほとんどありませんでしたし、いろんな方と交流をすることは自分の性格としても合っていない

かることはその場で答えますが、分からぬこと、不安なことは赤司先生に確認して、その日のうちに返事をすることで信頼関係を作っていくよう努めています。自分自身に完璧を求める上、知識が足りないことを自分で責めてしまうので、まずは知らないことをスタートにして、分

## 循環型糖尿病連携バスにおける コーディネーター

司会（小野） 本日はお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。本日は「多職種連携による糖尿病重症化予防」というテーマで座談会を開催いたします。よろしくお願いいいたします。まず赤司先生から連携バスを始められたきっかけについて、お教えいただけますか。

大学のジョスリン糖尿病センターから帰国して、2006年に嶋田病院に赴任しました。赴任当時はこの地域では糖尿病についての一般的な治療はおこなわれていたものの、例えば尿蛋白の出現が糖尿病腎症の悪化を示唆することなど、少し踏み込んで知識が全体で共有されていませんでした。まずは病院と診療所やクリ

ニックなどの開業医の先生方との連携を強化し、知識を共有することで、地域全体として糖尿病の重症化が予防できるのではないかと感じました。司会 この地域の連携バスでは、連携コーディネートナースの存在が大きな特徴だと思います。コーディネー

で、他科の医師も自分の患者さんにについて、よく質問するようになり、さらに他の病棟の看護師も彼女たちに質問してくるようになりました。もちろんそのためには彼女たちも知識を身につけないといけないので、糖尿病関連の学会に参加するなど、

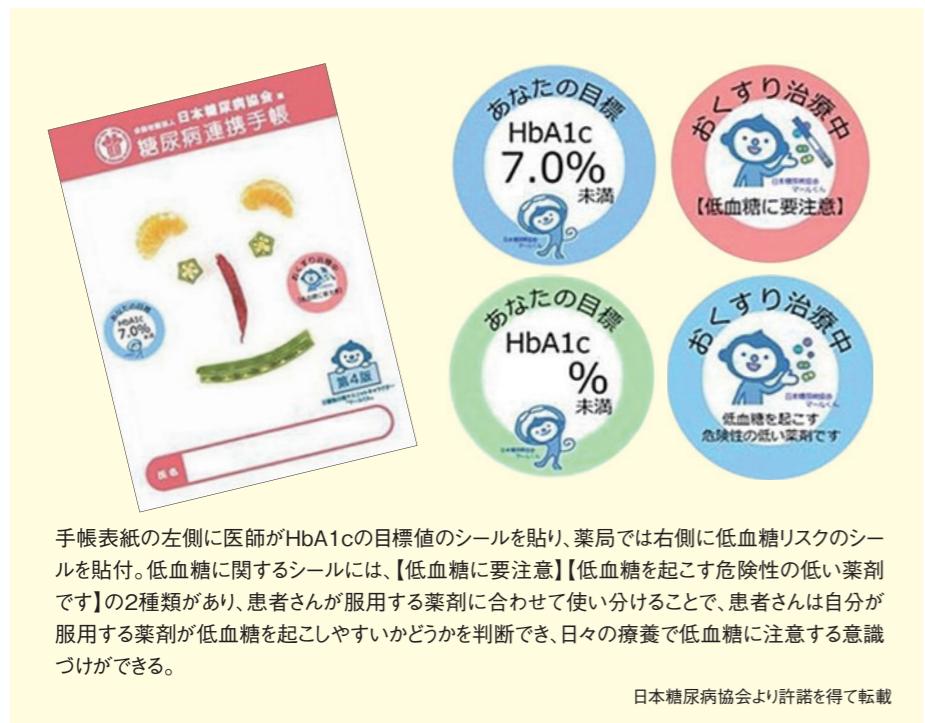
退院後も患者さんのことをとても気にしていました。その姿を見て、薬剤師や看護師などの方々にも積極的に患者さんに関わってもらうようになれば間違いない良い医療ができるだろうと、チーム医療の重要性を感じていたことが、そもそものスタートとしてあります。そこで次の勤務先である浜の町病院に移ったときには、病棟全体で糖尿病チームを立ち上げたのですが、その時の主力メンバーが現在嶋田病院でコーディネーターとして勤務しているナースと坂本さんと西岡さんです。医師の相談相手として看護師は比較的の気軽に声をかけやすい存在ですから、この二人にチームに加わってもらうこと

**司会** 赤司先生からお誘いを受けて、西岡さん、坂本さんはどのようにお感じになりましたか。

た瞬間に、看護師がコーディネーターの役割をすれば、看護師の知識レベルも上がり、良い連携バスが地域全体でできると確信しました。そこで院に来てほしいとメールを送りまし

で、他科の医師も自分の患者さんにについて、よく質問するようになり、さらに他の病棟の看護師も彼女たちに質問してくるようになりました。もちろんそのためには彼女たちも知識を身につけないといけないので、糖尿病関連の学会に参加するなど、積極的に勉強してもらっていました。その後3年間の留学を経て嶋田病院に赴任してから、ある日、連携パスの勉強会に参加したのですが、そこで「大腿骨頸部骨折の連携バスがうまくいっているところは必ず良いコードイネーターがいます」という言葉がありました。その言葉を聞いて

自己管理応援シール



## 糖尿病療養指導リーフレットの一例

# 塩分を摂り過ぎていませんか？

塩分のとり過ぎ → 高血圧 → 健康への悪影響

## 【1日の塩分摂取の目標】

★健康な成人の場合

男性8g、女性7g

★高血圧治療が必要な場合

男女5g以下

- ・腎症の悪化
- ・動脈硬化の進行
- ・脳卒中や心筋梗塞のリスク増大など

## ～ラーメン編～

とんこつラーメン	約5.3g
塩ラーメン	約5.5g
しょう油ラーメン	約5.5g
坦々麺	約6.3g
チャーシュー麺	約6.0g

ぎょうざ(3つ)	約0.4g
ぎううが(5つ)	約0.7g
タレ(10g)	約1.0g

チャーハン(1人前)	約2.5g
紅しょうが(10g)	約0.7g～一つまみ

高菜(20g)	約1.2g
---------	-------

※店舗によっても塩分量に差があり、大盛りや替え玉などをした場合も塩分量が増えます。

「ラーメン+ぎょうざ(3つ)+チャーハン」セットで  
なんと塩分8.1g！ (+ぎょうざのタレ1.0g)

## ◆減塩ポイント◆

- ①ラーメンのスープを残すと約2~3gの減塩が出来ます。
- ②紅しょうがや高菜のトッピングを控えれば約2gの減塩が出来ます。

も病院での指導内容を理解して患者さんにお話ができますので、とても助かっています。またリーフレットに 対する患者さんの 反応などは、必ず コーディネート ナースにフィード バックするように しています。

師が気になつたことがある時は、次の受診日までの間に、電話によるフォローアップを行うこともありますし、最近そういうえばあの患者さんの顔をみていないけど大丈夫だろうか、など気に掛けたりもします。このように、お薬をお渡しした後も、患者さんの状況を確認し、医療機関へ情報提供することも薬局ならではの役割

**赤司** 薬剤師の先生方は勉強熱心で理解力の高い方々が多いですね。加えて病院や開業医、コーディネーター、ナースと連携して患者さんに接することで、本当に患者さんの役に立つているという想いを持つていただいていると、やりがいに繋がっているのだと思います。

**水口** 嶋田病院が連携している診療所、クリニックの近辺にそういう薬局が出店していたこともあり、薬局との連携を考えていた赤司先生にお声がけいたしました。最初は何から始めればいいのか悩みましたが、大刀洗店に隣接するやなぎ医院での申し送り（※）に参加し、連携の現場を目の当たりにしたことで、患者さんにとってこの連携バスはとても有用であると確信し、まず赤司先生

**司会** ありがとうございます。次に連携バスに薬局が参加することとなつた経緯について、お聞かせください。

連携バスにおける薬局の役割

**赤司** あと適性として、医師に気を使いすぎるタイプではなく、医師が姿勢が大切です。自分のありのままでぶつかった方が信頼関係を築くことができると思います。

気楽にコミュニケーションをとれる  
ような性格の人が良いですね。また  
一人だと負荷もかかりすぎるし落ち  
込むこともあると思うので、絶対に  
二人を配置するべきだと考えました。

剤師会のご協力をいただけたことで、「小郡七夕薬葉ネットワーク連絡会」(※※)という勉強会も立ち上げることができました。

えていただけれど、これは、とてもありがたいですね。

選の理由などを説明する。  
義や、コーディネートナースによる療

**赤司** 薬剤師の先生方は勉強熱心で理解力の高い方々が多いですね。加えて病院や開業医、コーディネーター、ナースと連携して患者さんに接することで、本当に患者さんの役に立つて、やりがいに繋がっているのだと 思います。

**水口** 私は当社だけでなく、地域で広く取り組んでいきたいという思いました。私自身それまでさまざまな地域で勤務してきましたが、そうごう薬局のように全国に展開する薬局が、地域における薬業連携の一端を担う例は少なく、経験値もありませんでしたので、地域の薬剤師会に相談したのですが、そこで快く協力を頂けることとなつたことで、前に進むことができました。また薬

**赤司** 私自身、薬局との連携は大切だと考えておりましたので、糖尿病の病態を伝えること、病院と診療所で使っていた糖尿病の知識や療養指導などのリーフレットを薬局にも配いました。

気楽にコミュニケーションをとれる  
ような性格の人が良いですね。また  
一人だと負荷もかかりすぎるし落ち  
込むこともあると思うので、絶対に  
二人を配置するべきだと考えました。

剤師会のご協力をいただけたことで、「小郡七夕薬葉ネットワーク連絡会」(※※)という勉強会も立ち上げることができました。

今回は赤司先生をはじめとして、開業の先生方、コーディネートナースのお二人、そして我々薬局が薬剤師会の協力を頂けたこと、という環境がそろって素晴らしい連携のかたちができました。

えていただけれど、何事かお聞きしたいことがあります。どうぞお聞かせください。

山本 病院では話しづらいことも薬局では話せるとおっしゃる患者さんもいらっしゃいます。患者さんの治療に対する考え方や、ご家族構成や生活背景などをお聞きして、お話しをすることもできますし、話を聞いてもらつただけで気が楽になつたということもよくお聞きします。

持参し、検査の必要性や治療薬選択の理由などを説明する。  
向けの勉強会。赤司先生による講義や、コーディネートナースによる療

**山本** 連携ツールとしては、糖尿病連携手帳も活用しています。特にインスリンを使用している患者さんなどでは低血糖に注意することが必要でするので、糖尿病連携手帳の表紙に自己管理応援シールを貼って、薬物療法の状況が一目で分かるようにしています。

**司会** ありがとうございます。次に  
赤司先生が連携バスにおいて、薬局  
に期待されることについて、お聞か  
せください。

**赤司** 院外処方の患者さんであれば  
必ず薬局を訪れます。そこで薬剤師  
の先生とお話をする機会があるので、  
薬のことだけではなくプラスアル  
ファのメッセージまで患者さんに伝

の人が声を上げて周りの人たちを少しづつ巻き込んでいくことが大切で、やはり何とかしたいという、強い気持ちがないと何事も前には進まないですね。またその時に大切なことは、自分の利益にとらわれてはいけないということです。コーディネーターなり

**北尾** 患者さんとお話をする中で薬剤師所に情報提供するようになります。

A photograph showing three individuals from the chest up. They are all wearing white surgical-style face masks. The person on the left is a man in a dark blue suit jacket, a white shirt, and a dark blue patterned tie. The person in the center is a man in a grey suit jacket, a light blue dress shirt, and a pink tie. The person on the right is a woman in a dark blue blazer over a white top. They appear to be seated at a conference table in an office environment.

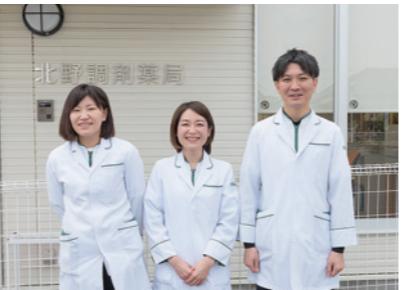
申し送り：糖尿病連携コーディネートナースが診療所を訪問しておこなう情報提供活動。診療情報提供書を診療所に直接持参し、検査の必要性や治療薬選択の理由などを説明する。  
※小郡セタ薬業ネットワーク連絡会：久留米三井薬剤師会と鷲田病院、そごう薬局とが合同で立ち上げた、主に薬剤師向けの勉強会。赤司先生による講義や、コーディネートナースによる療養指導レポートへの解説などがあわせられている。

# 座談会を終えて



北野調剤薬局  
専門薬剤師  
糖尿病療養指導士  
北尾 美帆

北野調剤薬局  
福岡県久留米市北野町今山516-13  
TEL: 0942-23-1027  
FAX: 0942-23-1028  
(開局日)  
月~土(祝日を除く)  
(開局時間)  
月~水・金・土 9:00~18:00  
木 9:00~17:00



そうごう薬局 大刀洗店  
薬局長  
糖尿病療養指導士  
山本 隼也

そうごう薬局 大刀洗店  
福岡県三井郡大刀洗町下高橋3957-1  
TEL: 0942-77-1025  
FAX: 0942-77-1065  
(開局日)  
月~土(祝日を除く)  
(開局時間)  
月~金 9:00~18:00  
土 9:00~13:00



私は2010年にそうごう薬局 大刀洗店勤務となったのですが、その際に当時のエリアマネージャーであった水口部長と一緒に「小郡七夕薬業ネットワーク連絡会」を立ち上げました。座談会の中でもお話をありがとうございましたが、ネットワークの立ち上げにあたってはやはり、薬剤師会のご協力をいただけたことが大きかったと思います。連携に参画し、鳴田病院のスタッフと一緒に患者ケアを行うようになり、患者さんと深く関わる機会が増えたことで、もっと自分も糖尿病療養指導に関わりたいという思いが強くなり、2014年に地域糖尿病療養指導士の資格を取得しました。

患者さんの療養指導では、一人ひとりのライフスタイルがあるので、お話をしながら、その方にとって最も良い方法を、患者さんと一緒に探すようにしています。

赤司先生を中心として素晴らしい連携が出来ているので、今後はこれを継続、発展させることを考えないといけないと思っています。ひとりの薬剤師が対応できる患者さんの数は限られるので、これから更に薬局薬剤師から糖尿病療養指導士が誕生し、一人でも多くの仲間を増やすことができればいいですね。

## 卷頭座談会

### 多職種連携による糖尿病重症化予防



司会 最後に、それぞれのお立場で現在の課題や今後の抱負などについて、お聞かせください。

## 今後の抱負

坂本 ご高齢の糖尿病患者さんが増えてきており、退院後に高齢者施設に戻つていただく患者さんも多いのですが、そういう施設はまだ訪問できていないところがたくさんあります。私たちが相談窓口として機能することで、受け入れる側（施設）の不安を少しでも減らせるのではないかと思っています。

赤司 在宅や施設などでの高齢者の治療を考えると、今までは医療資源はどうしても足りなくなつてくるので、高齢者施設も含めた底上げを地域として真剣に考える必要がありますね。

司会 薬剤師としても高齢の患者さんの糖尿病指導については、服薬指導や服薬管理などの面で課題がたくさんあると感じています。

西岡 付け加えると、せっかくこんなに素晴らしい連携のかたちが出来上がっているので、これを継続させることを考えないといけないです。具体的には私たちの後任を育て、10年20年後も継続しているシステムとすることが必要だと思います。

北尾 それは私たち薬剤師の立場で

も同じです。質を担保しながら一人でも多くの患者さんの療養支援ができるよう、糖尿病療養指導士の資格取得も支援して、一緒に連携ができる仲間を増やしたいと考えています。

山本 そうごう薬局 大刀洗店、北野調剤局は健康サポート薬局としても認定を受けていますので、糖尿病情報発信を続けて、地域の皆さまの治療だけではなく、予防も含めて局になっていきたいと思います。

赤司 現在多くの地域で糖尿病治療において、病診連携、薬薬連携がおこなわれていますが、それがフローチャートで終わつてはいけないと思っています。フローチャートは動かさないと意味がない。それを動かすのは、今日ここに集まつてもらつた坂本さんや西岡さん、それに水口さんや北尾さん、山本さんのように熱い思いを持つた人だと思います。そういう人たちがしっかりと顔の見える関係の中で連携することで、本当の意味で有用な連携ができると思っています。

水口 赤司先生、坂本さん、西岡さん、本日はどうもありがとうございました。総合メディカルは全国で薬局を展開しておりますので、この素晴らしい取り組みを今後はぜひ、先生方

(この座談会は感染対策に十分に注意を図り、2022年3月に開催されました)

司会 本日はどうも、ありがとうございました。

司会 お力をお借りしながら、全国にお手伝いをしていきます。

司会 本日はどうも、ありがとうございました。

#### 〈プロフィール〉



赤司 朋之 先生  
(あかしともゆき)

平成3年：九州大学医学部卒業  
平成7年：九州大学総合診療部医員  
平成8年：九州大学第一内科医員  
平成9年：国家公務員共済組合連合会 浜の町病院  
平成15年：ハーバード大学ジョスリン糖尿病センターに留学  
平成18年4月から鳴田病院に勤務し現在は内科部長  
平成24年9月から佐賀大学医学部臨床教授併任  
日本糖尿病学会専門医・指導医、日本糖尿病協会医療者教育委員、グッズ編集委員、福岡県糖尿病協会常任理事、筑後糖尿病療養指導士会教育委員長  
第4回日本糖尿病協会ウィリアム・カレン賞受賞(平成28年)

# 地域連携 薬局紹介

隣接する2薬局で機能を相互補完し、月間約5,000枚の処方箋に対応

## そうごう薬局 西国分寺駅前店・西国分寺店



西国分寺店  
薬局長 矢口 愛美



そうごう薬局 西国分寺駅前店  
東京都 国分寺市泉町2丁目9-3 泉ビル102号  
TEL : 042-328-0801  
FAX : 042-328-0802  
(開局日) 月～土(祝日を除く)  
(開局時間) 月・火・木・金 9:00～19:30  
水 9:00～19:00  
土 9:00～14:00



そうごう薬局 西国分寺店  
東京都 国分寺市泉町2丁目9-1  
西国分寺ライタワー1階  
TEL : 042-321-8201  
FAX : 042-321-8202  
(開局日) 月・火・木～土(祝日を除く)  
(開局時間) 月・火・木・金 9:00～17:00  
土 9:00～16:00

2つの薬局のメリットを最大限に生かし、  
患者さんと地域医療機関の  
ニーズに応えたい

そうごう薬局 西国分寺駅前店(以下、駅前店)は、総合メディカルグループが東日本に出店を始めた当初にできた薬局で、医療モールからの処方箋を中心に応需しています。現在は隣接する西国分寺店と合わせて月間約5,000枚の処方箋を応需していますが、うち約4,000枚が駅前店での処方箋となります。この枚数を駅前店のみで対応しようとすると、どうしても患者さんを待たせてしまったり、またスペースの都合でベビーカーや車いすで訪れる患者さんにご不便をかけてしまうこともあるため、比較的待合室も広い西国分寺店と連携して対応しています。現在はクラウド型電子薬歴Musubi(カケハシ社)が導入されていますので、どちらの薬局でも同様に処方、服薬指導が可能となっています。

また、駅前店は健康サポート薬局としても認定を受けていますが、測定機器などを使用したイベントの場合には、やはりスペースが足りなくなるので、西国分寺店と共同で開催する等しています。

今回は駅前店が地域連携薬局としての認定を受けることができましたが、西国分寺駅の近くには多摩地域の広域基幹病院である多摩総合医療センターがあり、患者さんの入院時に主処方元の医師と連携して医師と薬局の連絡



そうごう薬局 西国分寺駅前店が  
1階に入居する医療モール

2021年8月より「地域連携薬局」と「専門医療機関連携薬局」の認定制度がスタートしました。総合メディカルグループでは、2022年6月現在、181薬局が地域連携薬局認定を受け、地域の医療機関や他の薬局との連携を進めています。今回は地域連携薬局として活動する、そうごう薬局 新倉敷店と、そうごう薬局 西国分寺駅前店をご紹介します。

※地域連携薬局：入退院時や在宅医療において、他の医療提供施設と連携して対応できる薬局

顔の見える関係を築き、多職種連携を推進

## そうごう薬局 新倉敷店



そうごう薬局 新倉敷店  
岡山県 倉敷市玉島上成539-7  
TEL : 086-523-1151  
FAX : 086-523-1152  
(開局日) 月～土(祝日を除く)  
(開局時間) 月～土 9:00～19:00

医療者として患者さんに寄り添い、  
その気持ちを代弁することで  
スムーズな連携に繋がる



そうごう薬局  
新倉敷店  
専門薬剤師  
岡野泰子

そうごう薬局  
新倉敷店  
薬局長  
宮本慶子

問し患者さんの希望や状態を医師にレポートとして提出するなど、きめの細かい活動もおこなっています。

また、ポリファーマシーなど患者さんの不利益が考えられるような処方の場合、薬剤師としては患者さんの気持ちをよく理解して、病院、クリニックの医師に対して患者さんの気持ちを代弁することが何より大切だと思います。患者さんのことで困ったことがあれば、医師にそのまま困りごととして伝える方が同じ医療人として共感が得やすいので、そこは臆せずに踏み込むようにしています。そういう面ではレポートの書き方なども、今後トレーニングが必要だと感じています。

その他の取り組みとしては、病院との連携にとどまらず、地域の薬局との連携も進めています。例えば施設に入居している患者さんが他の施設に移ることになった場合には、移動先施設の近隣薬局に患者さんの情報を提供しますが、こういったことも薬剤師会において日頃から顔の見える関係性を作っていることが大きく寄与しています。

今後は、このような関係を地域全体にさらに広げることと、新倉敷店では、がん患者の処方箋応需も多いため、地域の病院と専門性の高い連携をおこない、専門医療機関連携薬局の認定を目指します。

そうごう薬局 西宮原店  
大阪府大阪市淀川区西宮原3丁目3-98

## オール薬剤師 禁煙ひと声運動

2021年10月17日～10月23日 開催

「禁煙支援」への取り組みとして、オール薬剤師による禁煙ひと声運動を実施しました。

大阪府薬剤師会より提供いただいた「オール薬剤師 禁煙ひと声運動記録票」をもとに、喉や胃の不調を訴える方や、痰が絡む方、ご家族で喫煙されている方などに対してひと声かけて、禁煙をサポートするプログラムやチラシなどを紹介しました。

禁煙することでの節約効果を数値でお示しすると興味を示される方も多く、「やってみようかな」と前向きに検討される方もいらっしゃいました。

近隣で禁煙外来を実施する医院も多くあるため、今後も協力しながら禁煙のフォローによる健康増進を進めています。



## そうごう薬局 本宮店

福島県 本宮市本宮字南町裡117-3

### 健康いきいきステーション ～電話相談会～

2021年11月27日 開催

そうごう薬局 本宮店では、「健康サポート薬局」「かかりつけ薬局」として地域の皆さまの健康をサポートする目的で、毎月、薬剤師による健康相談会を実施しています。

事前にチラシにてご案内し、当日はOTC・サプリメントの飲み合わせや、コロナワクチンの検査キット、ご自身の疾患に対する食事指導について等のご相談がありました。

お電話をいただいた方からは、「直接薬局に行くと他の人の目が気になったり、時間に限りがあるのでなかなか質問することができなかったが、電話で相談を聞いてもらえるとそのような問題が解決されるので、とても相談しやすかった。またよろしくね。」とのお言葉をいただきました。



## 全国に広がる 健康サポート薬局



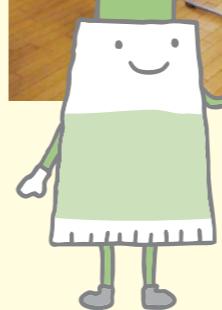
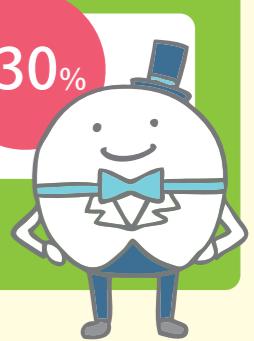
健康サポート薬局とは、かかりつけ薬剤師・薬局の機能に加えて、健康サポート機能として、市販薬や健康食品に関する事はもちろん、介護や食事・栄養摂取に関する事まで気軽に相談できる薬局のこと。

日本全体では2021年6月末時点で2,608薬局が健康サポート薬局として届出されていますが、これは総薬局数の約4.3%です。そうごう薬局グループでは、2022年6月1日現在で健康サポート薬局数が216店舗に達し、グループ薬局全体の約30%を占めています。

今後も全国の薬局で、地域の皆さまの健康サポートや健康増進につながるような取り組みを続けていきます。

そうごう薬局グループの  
216 店舗  
744 店舗  
(2022年6月1日現在)

約30%



## そうごう薬局 今福つるみ店

大阪府大阪市城東区今福東1丁目13-8

### 栄養ケアサポート講演会 ～低栄養の予防～

2020年11月6日 開催

そうごう薬局 今福つるみ店は栄養ケアサポート薬局として登録があり、地域包括支援センターと共同で栄養ケアサポート講演会を開催しました。

フレイルにならないように、健康寿命を延ばすためには低栄養の予防が大切です。そのためには、バランスの良い食生活とともにタンパク質をしっかり摂る必要があります。このバランスの良い食事について、クイズもあり交ぜながら講義しました。

講義後には皆さんから多くの質問をいただき、日常の食事を改善する意欲が伝わってきました。

取り組みの一部を  
ご紹介します

## 妊娠・授乳期の薬物療法に貢献する薬局づくりを目指して

2021年11月6日～7日 第15回日本薬局学会学術総会 | ポスター発表



### 妊娠・授乳期の薬物治療や聴取に対する女性来局者と薬剤師の認識調査

総合メディカル・ファーマシー中部株式会社  
ハロー薬局みわ店(愛知県) **木下仁美**

#### 発表概要

妊娠・授乳期の女性の薬物治療には、胎児・乳児への影響など、積極的な薬剤師の介入が求められる。そこで、薬剤師145名と18～40歳女性患者を対象にアンケートを実施。妊娠・授乳有無の聴取に対する抵抗感、薬物治療への不安について調査し、双方の認識の違いを明らかにして今後の薬剤師の関わり方について検討した。

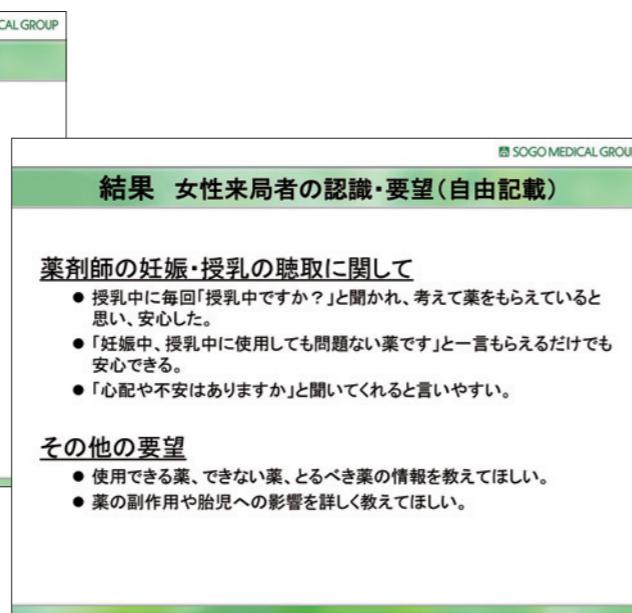
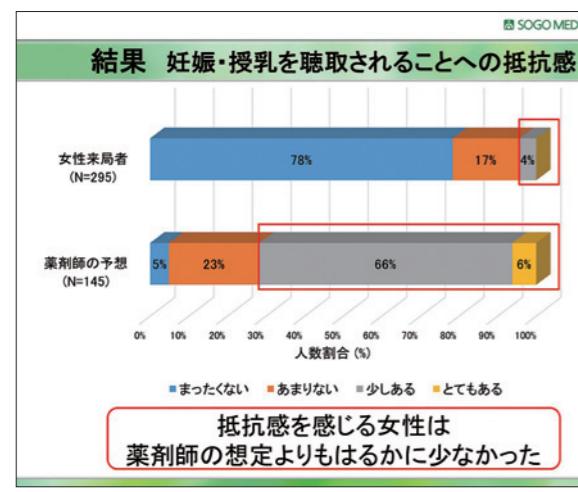
調査の結果、薬剤師は「聴取されることに女性は抵抗を感じているのではないか(72%)」と回答した一方で、来局する女性の95%が「聴取に抵抗ない・あまりない」と回答。聞かれた方が答えやすいという声もあった。また、市販薬の使用について90%の女性が不安を感じるとの事だった。

のことから、薬剤師は抵抗感にとらわれず、妊娠・授乳状況を聴取し、市販薬を含めた薬物治療の安全性に貢献するなど、不安解消に努めることが必要である。

#### 発表者インタビュー

きっかけは、愛知県薬剤師会において「妊娠・授乳サポート薬剤師」を養成しており、その役割の重要性を感じたからです。そして妊婦や授乳婦が抱える不安や悩みに対し、そもそも薬剤師の関わり方は適切なのか振り返り考えたいと思いました。

今回の結果を踏まえ、妊婦・授乳婦が安心して薬物治療を継続できる環境づくりのための取り組みを検討しています。



## 腎機能障害患者の薬物療法に貢献する薬局づくりを目指して

2021年11月6日～7日 第15回日本腎臓病薬物療法学会 学術集会・総会2021 | 口頭発表



### 薬局におけるレニンアンジオテンシン系阻害薬、利尿剤、NSAIDsの3剤併用(Triple Whammy)に関するNSAIDsの使用実態調査

総合メディカル株式会社  
そうごう薬局 西冠店(大阪府) **福井 章人**

#### 発表概要

高齢者やCKD患者へのレニンアンジオテンシン系阻害薬(以下RASI)・利尿薬・NSAIDsの3剤併用は急性腎障害発症リスクを高めることが報告されている。そこで、8ヶ月間12店舗において、RASI・利尿剤の2剤を30日以上併用していた患者さんの薬歴から、複数診療やOTCを含めた3剤併用の背景について検討した。

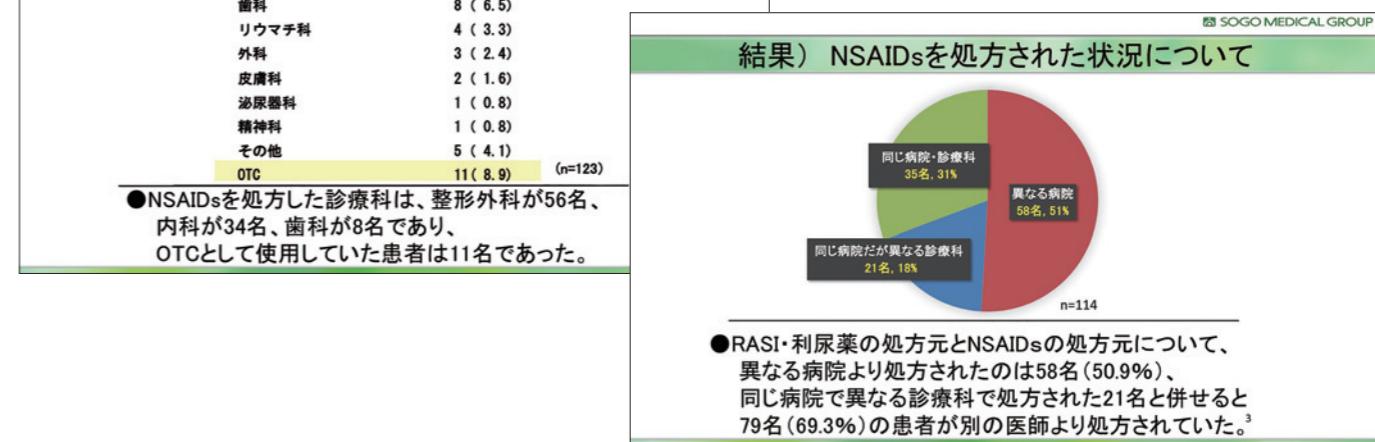
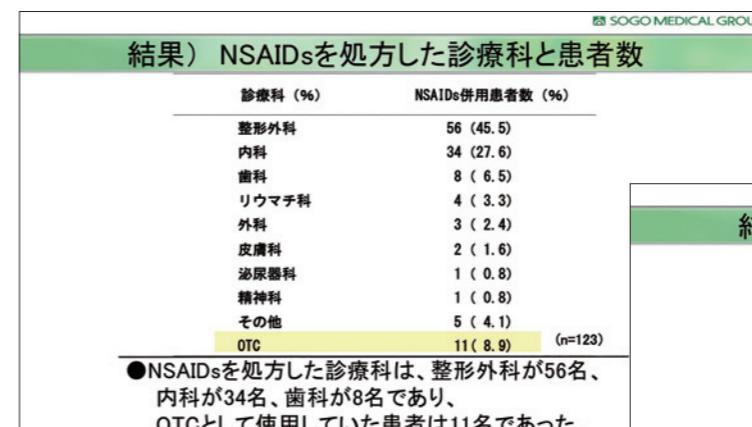
来局者51,355名のうち、RASI・利尿剤の2剤併用411名、うちNSAIDs併用は123名であった。NSAIDsが2剤と異なる医師により処方されたのは79名、同一の医師35名、OTC購入での併用は11名であった。一方で、薬剤師の腎機能評価については2剤併用患者411名のうち131名(32%)に留まっていたことも分かった。

このことから、2剤併用患者には、短期間でもNSAIDsが併用される可能性に注意し、医師とそのリスクについて事前に共有することが重要である。

#### 発表者インタビュー

今回は、応需先の病院薬剤部長と「研究を介した連携」についてご相談した際、「腎障害患者のNSAIDs対応に苦慮している」との話を頂いたことがきっかけでした。研究のタネを一から考えるのは大変ですが、病院で行われている研究テーマを薬局に置きかえてみると新たな可能性が広がることを実感しました。

今回は取り組み前の調査研究ですので、得られた結果から次にどのように取り組むべきかを検討して参ります。



**vol.81**

2022年6月発行 発行／総合メディカル株式会社  
〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神 2-14-8  
薬局事業本部 TEL：092-713-7061

